

④ 教科書をもとに、交流(ペア)させる。(5分)

T「となりの友達と、どこに線を書いたかを確認してみましょう。」

※この交流学习では、どこに番号を書いたかを確認することが目的で、相違点などについては次の学習活動で行うことを児童に伝える。

※③の学習活動が終了していない児童を中心に、指導者は机間指導する。

① 前時の学習を振り、本時のめあてを確認する。(10分)

T「前は、フェリーボートについて書かれていることを『のりものカード』にまとめましたね。」

→前時にまとめたワークシートから、内容を振り返る。

T「今日は、ぎょせんについて書かれていることを『ワークシート』にまとめていくよ。」

※本時の学習課題も前時の学習と同じように進めていくことを確認し、見通しをもち、抵抗感をもたずに取り組めるようにする。

⑤ 交流した内容をもとに、全体で話し合う。(10分)

T「ふねのなまえは、何ですか。」

○予想される反応
「ぎょせんです。」

T「ぎょせんは、何をするための船かは、教科書のどの文を手がかりに見つけられますか？」

○予想される反応
「さかなをとるためのふねですの所です。」
「〇〇は、〇〇をするためのふねと書かれているところだから、さかなをとるです。」

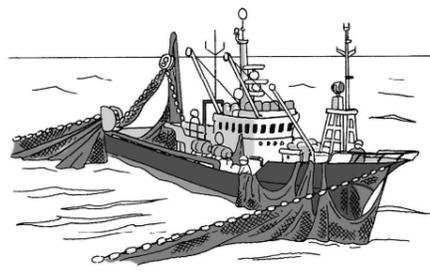
T「『つくり』はどの文を手がかりにすれば見つけられますか？」

○予想される児童の反応
「『〇〇があります』です。」
T「ここでは『〇〇があります』の代わりにどういう文になっていますか？」

○予想される児童の反応
「〇〇をつんでいます。」という文になっています。

T「最後に、『できること』は、どこに線を書きましたか？」

★乗り物の「やく目」「つくり」「できること」を表すだいな言葉や文を見つけながら読んでいる。(教科書・発表)



ふねのなまえ

① やく目

さかなをとる。

② つくり

さかなのむれを見つけてるきかいやあみ。

③ できること

見つけたさかなをあみでとる。

め

いろいろなふね

「ぎょせん」についてワークシートにまとめよう。

ぎょせんは、さかなをとるためのふねです。このふねは、さかなのむれを見つけてるきかいやあみをつんでいます。

見つけたさかなをあみでとります。

② 「ぎょせん」について書かれているところ(P41)を音読する。(5分)

T「41ページのぎょせんについて書かれているところを先生の後に読みましょう。(追いかけて読み)」

T「次は、みんなで声をそろえて読みましょう。(一斉読み)」

※学級の実態から、1回の読みでは十分に内容を理解することが困難なため、繰り返し、音読する。

③ 「ぎょせん」の「やく目」「つくり」「できること」が分かるところに線を引く。(5分)

T「教科書に線を引く前に、『やく目』『つくり』『できること』を見つけるヒントがあったの覚えていますか？」

※ワークシートに書かせる前に、全体で「やく目」「つくり」「できること」を見つける手がかりとして、それぞれの文型があったことを確かめる。(文型を黒板に掲示する)

T「前にやった時と同じように、『やく目』が分かるところには①、『つくり』が分かるところには②、『できること』が分かるところには③の番号を書き、線を引きましょう。」

※漁船では「つくり」の文型が変わるため、線が引けない児童も予想される。その場合は、全体でつくりの文型は何になっているかを確認する。その際、指導者は「困ったなあ」とつぶやき、児童が主体的に問題を解決していく仕掛けをする。

T「番号が書けた子は、『〇〇だから、〇〇だよ』って友達に説明できるかな?。」

⑥ 話し合った内容をもとに、ワークシートにまとめる。(9分)

T「みんなで確認したことを、ワークシートにまとめていきましょう。」

※「つくり」の部分をキーワードでまとめる際には、児童と確認しながらワークシートに書かせる。

⑦ 次時の学習について知る。(1分)

T「明日は、消防艇について勉強します。消防艇は、どんな船か楽しみですね。」

◇ワークシート①



いろいろなふね

なまえ()

ふねのなまえ

やくめ

つくり

できること